

報道関係各位

平成25年 4月3日
株式会社 クロス・マーケティング(東証マザーズ3629)
株式会社リサーチ・アンド・ディベロプメント

カラーTVの保有率 98%、冷蔵庫 87%、洗濯機 79%

今後1年以内に購入したい耐久財の第1位は自動車、次いでエアコン

「インド4大都市・中間層の正体を探る」調査シリーズ③:
インド中間層のIT機器の普及・利用状況と主要耐久財の保有・購入意向

株式会社クロス・マーケティング(所在地:東京都中央区、代表取締役社長:五十嵐幹 以下、クロス・マーケティング)と、株式会社リサーチ・アンド・ディベロプメント(所在地:東京都中央区、代表取締役:桑田瑞松 以下、R&D)は、2013年2月にインドの4都市(デリー/ムンバイ/バンガロール/チェンナイ)で20~49歳のミドル収入層男女(世帯月収:20,000~59,999ルピー)を対象に、共同で調査を実施いたしました。

■調査背景・目的

約12億人の人口を抱えるインドに、次世代マーケットとしての期待を注ぐ企業が増えています。今回の調査では、インドという「国」単位ではなく、大都市に住む「インド中間層生活者」に、個人の生活価値観や生活意識、買い物行動などを尋ね、「都市別」「性・年齢別」にその実態を明らかにしました。

※一部の調査内容は、R&Dが毎年10月に首都圏で実施している『CORE』調査を基に、日印比較を試みました。

■調査結果

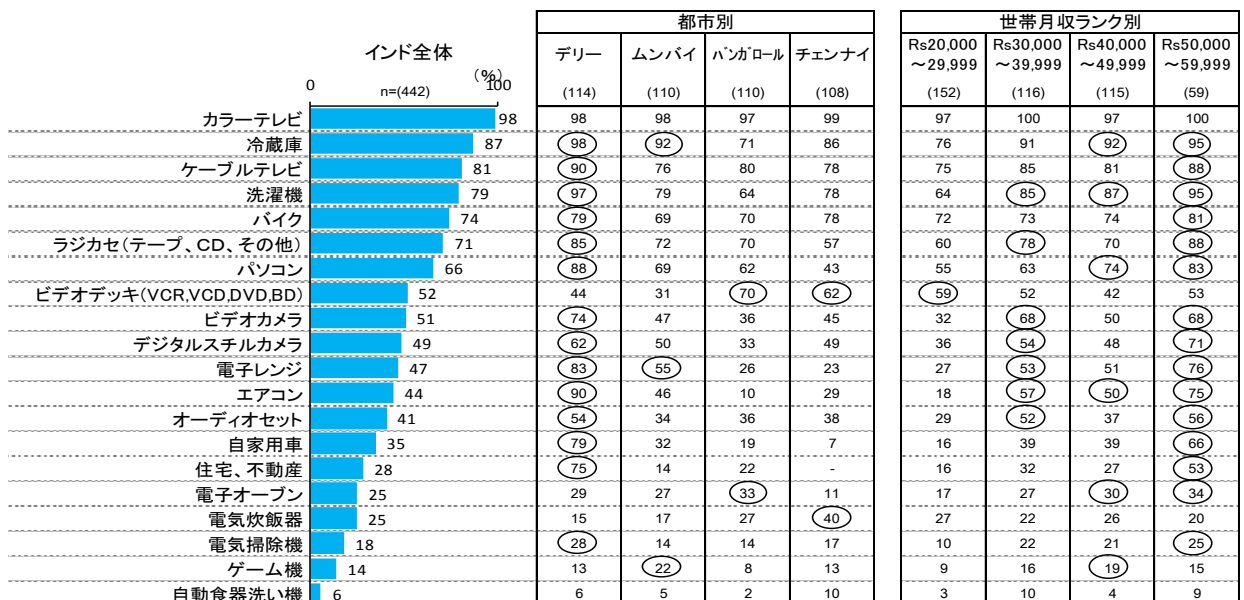
- ✓ 4都市全体で保有率80%レベルを超える耐久財は「カラーテレビ、ケーブルテレビ」、「冷蔵庫」、「洗濯機」の3種類に過ぎないが、今後1年間の購買意向は「自家用車」、「エアコン」などを筆頭に購買意欲が旺盛。<図1、2>
- ✓ 耐久財の保有率は都市間及び収入レベルによる格差が大きく、特にデリーと他の3都市との差は顕著。<図1>
- ✓ スマホを含む携帯電話の利用率は4都市全体で97%と日本と同レベル。そのうちスマホ利用率は34%で、日本(51%)をかなり下回る。また、スマホ利用率は男女差が大きく、男性47%、女性21%。<図3>
- ✓ エレクトロニクス製品では「サムソン」の保有・利用経験率が91%と最も高く、性・年代別や都市別でも「サムソン」が最も高い。次いで「ソニー」(80%)が続く。「アップル」は30%と上位2ブランドに大きく差がついている。<図4>

◆自主調査レポートの続きはこちらへ⇒ <http://www.cross-m.co.jp/report/india20130403/>

<図1> 主要耐久財・保有率

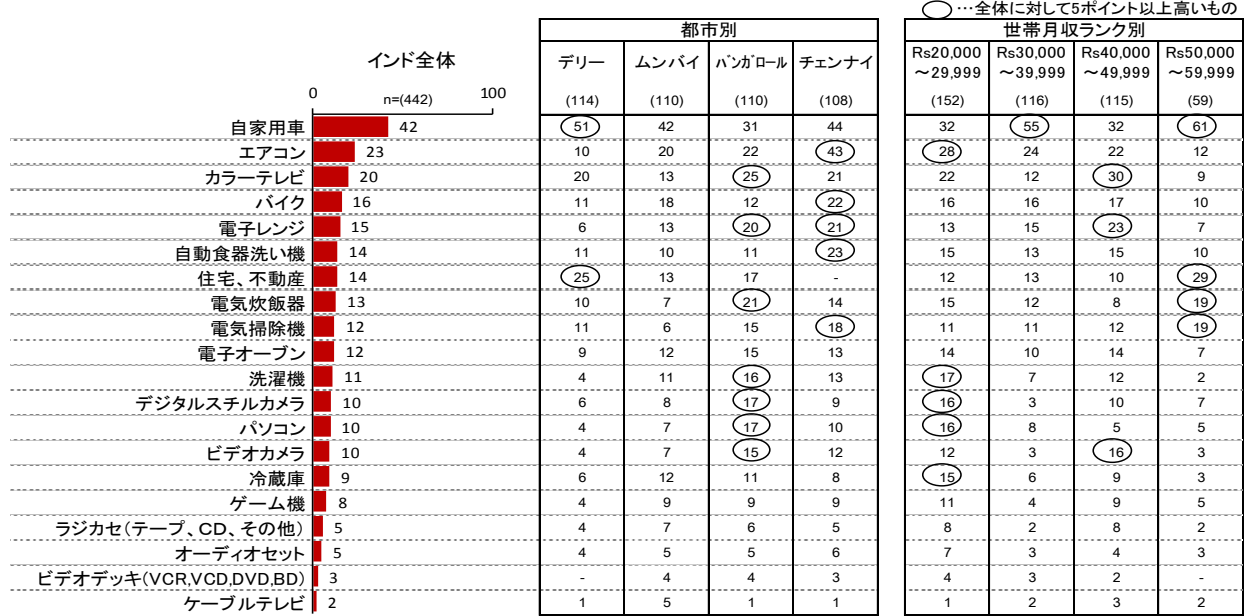
主要耐久財世帯保有率

○ …全体に対して5ポイント以上高いもの



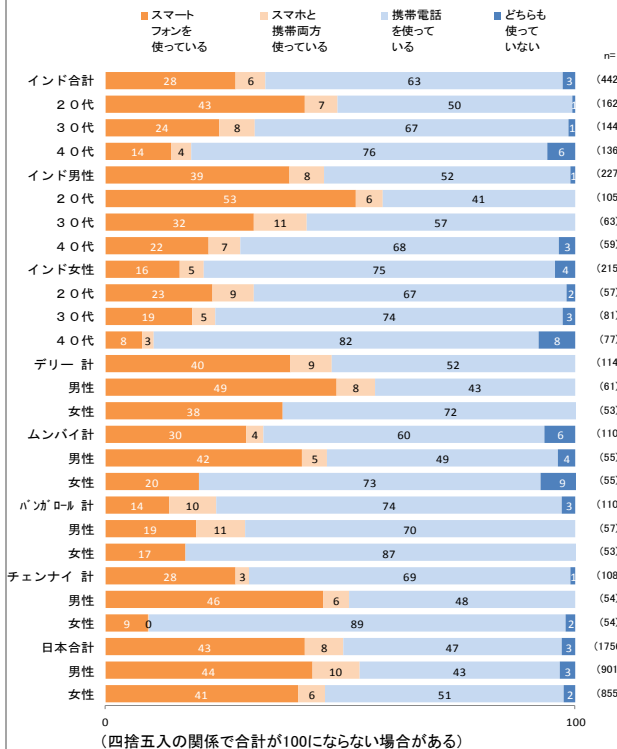
〈図2〉 主要耐久財・購入意向率

主要耐久財1年以内の購入意向率

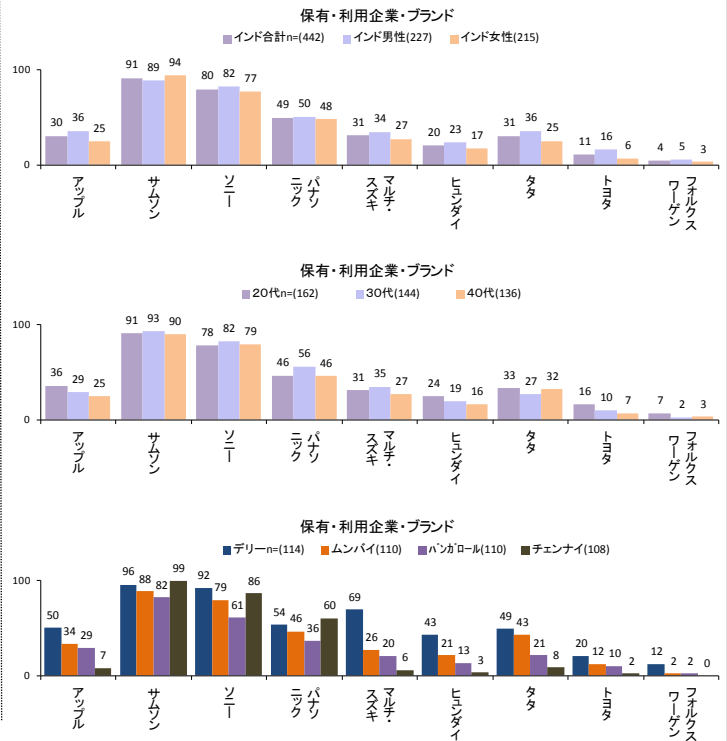


〈図3〉 スマホ・携帯電話利用実態

携帯電話やスマートフォン利用状況



〈図4〉 エレクトロニクス/自動車メーカーの保有・利用経験



■ 調査概要

調査手法：「街頭リクルートによる1対1の面接調査」を実施

調査対象：インド4都市(デリー/ムンバイ/バンガロール/チェンナイ)20～49歳のミドル収入層男女(世帯月収:20,000～59,999ルピー)
各都市約110名

調査期間：2013年2月2日(土)～2013年2月3日(日)

有効回答サンプル数：442サンプル

※一部の調査内容はR&Dが毎年10月に首都40km圏で留置法で実施している『CORE』調査を基に日印比較した。

クロス・マーケティングとR&Dでは、今後「インド4大都市・中間層の正体を探る」調査として、三本立てシリーズで順次発表してまいります。

シリーズ①：インド中間層の価値観・生活者マインド(2013/3/15 ご案内済み)

シリーズ②：インド中間層のライフスタイルと消費意識/態度(2013/3/22 ご案内済み)

シリーズ③：インド中間層のIT機器の普及・利用状況と主要耐久財の保有・購入意向(今回)

■ 会社概要 ■

会社名：株式会社クロス・マーケティング(東証マザーズ:3629)

所在地：〒104-0061 東京都中央区銀座8丁目15番2号

代表者：代表取締役社長 五十嵐 幹

資本金：274,400千円

設立：2003年4月1日

URL：<http://www.cross-m.co.jp/>

事業内容：リサーチ事業、ITソリューション事業

会社名：株式会社リサーチ・アンド・ディベロプメント

所在地：〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町1丁目4番10号

代表者：代表取締役 桑田 瑞松

資本金：30,000千円

設立：1968年1月17日

URL：<http://www.rad.co.jp>

事業内容：マーケティング・リサーチの企画設計、実施及びコンサルテーション
経営・マーケティング活動の評価及びコンサルテーション

■ 本資料に関するお問い合わせ先 ■

株式会社クロス・マーケティング 広報担当 大島

TEL:03-3549-0328

e-mail:pr-cm@cross-m.co.jp

株式会社リサーチ・アンド・ディベロプメント 販促担当 小林

TEL:03-5642-7711(代表)

e-mail:radnews@rad.co.jp

《引用・転載時のクレジット表記のお願い》

本リリースの引用・転載時には、必ず当社クレジットを明記いただけますようお願い申し上げます。

<例>「クロス・マーケティングとリサーチ・アンド・ディベロプメントが実施した調査によると・・・」